

第1回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2007年1月9日（火）10：30～11：10

2. 場 所 中央合同庁舎4号館6階共用643会議室

3. 出席者 近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、広瀬委員、伊藤委員
内閣府 原子力政策担当室
丸山統括官、黒木参事官

4. 議 題

- （1）委員長代理の指名について
- （2）原子力委員会の新体制の発足に当たって
- （3）年頭に当たっての所信
- （4）その他

5. 配付資料

- （1）原子力委員会の新体制の発足に当たって
- （2）年頭に当たっての所信

6. 審議事項

（近藤委員長）それでは、定刻になりましたので、第1回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

今日は、小生が委員長に再任され、委員各位が新任されて初めての会合でございますので、議題に入る前に、一言ご挨拶申し上げます。この会議は申し上げるまでもなく、我が国の原子力政策に関する施策を決定する場でございます。また、原子力行政の民主的運営の観点か

らその活動が国民の皆様から見えるようにすることが重要なところ、この会議は委員会の考え方が、各委員のどういう考え方、御意見を踏まえて形成されたかということが国民から見える非常に重要な場でありますので、活発な御意見、御議論がなされるように運営してまいり所存でございますので、各位におかれては宜しくお願い致します。

(1) 委員長代理の指名について

(近藤委員長) それから、委員会設置法第4条2項には、委員長はあらかじめ、委員長に事故がある場合に委員長代理を常勤委員の中から定めておくべしと定められておりますところ、この委員長代理を田中俊一委員にお願いすることに致しました。宜しくお願いいたします。私からは以上ですが、各委員におかれましても、何か一言、所信など御発言いただけるよう時間を取りますので、御発言希望の方はどうぞ。はい、田中委員。

(田中委員長代理) 一言だけ。

ただ今委員長代理に御指名いただきまして、大変身の引き締まる思いで初会合に臨んでおります。それで、近藤委員長からありましたように、原子力委員会は立派な政策を作ることとありますが、政策は作っただけではなくて、それが実行されて価値が出てくると思っていますので、できるだけ関係者あるいは国民の意見をお聞きしながら、良い政策を作っていくように努力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(近藤委員長) 広瀬委員、どうぞ。

(広瀬委員) 私は、国際政治、特にインド、パキスタンの専門ということもありまして、そういう意味で国際的な方面にいろいろ関心がございまして、そこで何かお役に立てればと思っております。日本の平和利用ということ海外でも少しPRすると同時に、不拡散の問題についても取り組んでいきたいというふうに考えております。

それからもう1つは、私はこの技術的なところがあまり分かりませんので、この文章を読んでいるとまだ分からないものも出ております。国民の理解という点でもまだまだ足りないところはあると思っておりますので、そちらの方で、まず分からない私が分かるぐらいの程度にまで説明できるよう、なるべくそういうコミュニケーションの面でも色々と努力していきたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

(近藤委員長) それでは松田委員、なお、松田委員には、田中委員も私も欠席の際に会議を開催する場合には委員長代理の代理をお願いすることになりますので、よろしくお願いいたし

ます。どうぞ。

（松田委員）そういうことがないように、健康にはきちっとケアをお願いいたします。

私は、市民活動が続けている中で、廃棄物政策をもう２５年ぐらいやってまいりましたが、原子力の分野にとっても関心を持っておりますので、私も技術の専門家ではございませんが、市民がどういうふうに原子力エネルギーと関わっていけばいいのかというところで、一生懸命に知恵を出していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（近藤委員長）有り難うございました。

では、伊藤委員、最後になりましたが。

（伊藤委員）伊藤でございます。宜しくお願いいたします。

私は、長年電気事業の現場で、原子力発電をやってまいりました。最近、原子力を巡る環境は、内外ともに非常に大きく変わりつつあると感じておりまして、国際的に見れば、核不拡散、平和利用をどうするか。あるいは、国内的にもこれから処分の問題とか、いろんな問題、課題が上っておりますが、いずれにいたしましても、こういう課題を解決していくためには、やはりまずは国民の皆様の御理解がないと、一步も進まない。ちなみに、原子力政策大綱を改めてそういう目で読んでみましたら、５２ページ、本文の中に「理解」という言葉が、これは相手は国際社会であり、国民であり、地域であり、色々ありますが、２８回出てくる。ということは、１．８ページに１回、「理解」という言葉が出る。いかにやはり相互理解が大事かということ、この政策大綱は物語っているということではないかと思っております。

私は原子力の安全の現場に長くいたわけですが、やはりそこに携わっておりまして、やはり理解だということを痛感していて、そういう意味で、これから諸課題を色々とやりますが、まずは国民、社会との相互理解が基本であるということをしかり踏まえて、そして大綱の示されました原子力政策の基本の具体化に、微力ながら全力を挙げて尽力いたします。宜しくお願いいたします。

（近藤委員長）有り難うございました。

それでは、議題に入りますが、議事次第の紙にある議題の１の委員長代理の指名については既に終わりました。

（２）原子力委員会の新体制の発足に当たって

(近藤委員長) 議題の 2 は、原子力委員会の新体制の発足に当たってとありますが、これは科学技術政策担当大臣の高市大臣から新体制の発足に当たってお考えをお聞かせいただくことです。残念ながら、大臣が海外出張ということでご出席いただけず、代わりに、お考えを記した書面をいただきましたので、これを事務局の方から御紹介いただきます。宜しくお願いします。

(丸山統括官) 大臣は、本日よりシンガポールに海外出張しておりますので代わりにメッセージを伝えるように言われてまいりました。2 枚紙ですので読み上げさせていただきます。

原子力委員会の新体制の発足に当たって

原子力委員会にご就任された皆様をお迎えするに当たり、歓迎の意を表させていただくとともに、我が国の原子力政策の要である皆様に、私として重要だと考える原子力政策の課題について申し述べたいと思います。

現在、原子力はエネルギー安定供給及び地球温暖化問題への対応の観点から国内外で再評価されています。

原子力委員会は、我が国の原子力政策を着実に前進させていく原動力としてその活躍が期待されており、私としても、我が国の原子力政策が様々な課題を乗り越えていくために、原子力委員会が指導力を発揮することを期待しております。

具体的な当面の課題として、別紙について、原子力委員会において積極的に対応していただくことをお願い申し上げます。

原子力政策への期待として、4 点ございます。

1. 原子力政策の計画的推進と平和利用について

(1) 閣議決定された「原子力政策大綱」に沿って、原子力政策の着実な推進を図るとともに、その実施状況をフォローし、国民に分かりやすい形で示していただくことを期待します。

(2) 我が国の原子力平和利用の確保のための取組は、I A E A でも高く評価されています。今後とも、我が国の姿勢を国内外に示し信頼を得ることが重要であり、しっかりした取組を推進していただくことを期待します。

2. 国際問題への対応について

(1) 最近では、アジア地域の原子力発電導入拡大や北朝鮮の核実験のように、海外における原子力の「平和利用」や「核不拡散」が注目されています。核燃料供給保証のようなマルチの国際的枠組みについては、我が国の原子力政策にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

我が国としてもその検討過程に関わっていくことが重要であり、関係各省を取りまとめ、積極的に取り組んでいただくことを期待します。

(2) 我が国の原子力産業の海外展開については、基本的に推進していくべきですが、相手国における「平和利用の担保」など課題は多々あります。目先のビジネスにあまりとらわれ過ぎることなく、きちんと課題を解決しつつ進めていくよう指導していただくことを期待します。

3. 国民との相互理解の促進

(1) 原子力政策の推進は国民との相互理解が前提であり、広聴・広報活動に積極的に取り組む必要があります。タウンミーティングでの問題を教訓にしつつも、それに萎縮して、政府と国民との対話が先細りにならないようにしていただくことを期待します。

4. 個別課題

(1) 高速増殖炉サイクル技術は、長期にわたるエネルギー安定供給等の観点から重要なものであり、先日策定した基本方針が示す明確な目標とその達成に向けた道筋に沿って、関係者がそれぞれの役割を十分認識し積極的に研究開発を推進するよう指導していただくことを期待します。

(2) プルトニウム利用は、出来る限り透明性を確保し、国民の理解を得て進めることが何より重要です。国民に分かりやすい形でその管理状態や将来の利用計画を公表すべく、関係者と連携してしっかり取り組んでいただくことを期待します。

以上です。

(近藤委員長) 有り難うございました。

大臣から、多方面に渡って、委員会に対する期待の表明をいただきました。それぞれに重要な御指摘であり、委員会として心して取り組むべきと考えるものです。これに対しては、委員各位、それぞれにお考えをお持ちと思いますけれども、年頭の会議である本日は、恒例により、委員会としての年頭の所信を取りまとめることを次の議題で予定していますので、その内容にその思いを反映していくのが適切と存じますので、皆様のお考えを承ることなく、次の議題に移りたいと思いますが、よろしゅうございますか。

それでは、そのようにさせていただきます。

(3) 年頭に当たっての所信

(近藤委員長) 次の議題は、年頭に当たっての所信です。このことにつきましては、予め各委員より、年頭の所信を表明することについて御了解を頂戴し、大臣から寄せられた期待を踏まえつつ、それにいかなることが盛り込まれるべきかについて御意見をいただいて、事務局が原案を用意していますので、それを御紹介いただきまして、御審議いただきたいと思います。

では、どうぞ。

(黒木参事官) それでは、事務局の方から御説明したいと思います。

資料の第2号であります。表題に、「2007年年頭に当たっての所信」ということで、ちょっと(案)が省略されておりますが、案ということであります。

昨年と違う部分、形式上ですけれども、まず見出しを付けて分かり易くしたということ。それから、2点目に、昨年より少し簡潔にメッセージが伝わるように工夫させていただいたこと。3点目は、西暦を表題にも入れて、今年の所信だということが分かるようにしたという形でございます。

冒頭、御挨拶を書いております。最初に、1. ということで、原子力をめぐる現状認識を記載しております。第1パラグラフでは、昨年10月現在ということで、原子力発電の世界での状況を記載しております。世界で442基、370GWeの原子炉が稼働中だということを示しております。併せて、放射線利用についても広範に利用されているということに記載しております。

第2パラグラフでは、国際社会において、原子力発電を評価する動きが活発化してきているということと、他方で、北朝鮮やイランの動きなどにより、核拡散リスクに関わる懸念が増大してきているということを紹介しております。

第3パラグラフ以下が、我が国の現状を記載しております。我が国は原子力基本法に則り、原子力技術体系の確立を目指す取り組みを着実に進めてきていますといたしまして、昨年はプルサーマルの実施に関する立地自治体の事前了解が得られたこと、それから六ヶ所再処理工場のアクティブ試験が開始されたことなどの取り組みに前進が見られたとしております。

また、研究開発に関する取組では、J-PARCでのビーム加速試験の開始、「もんじゅ」の改修工事、更には第三期科学技術基本計画でFBRサイクル技術が国家基幹技術に位置付けられたということ。当委員会は、今後10年程度の間におけますFBRサイクル技術の研究開発の基本方針というものを定めたこと。更には、核融合研究開発についても、ITER協定の署名や幅広いアプローチ協定案の仮署名が行われるなどの大きな進展があったと

しております。

最後のパラに、一方、対策を強化すべき課題も少なくありませんとして、列挙してございます。まず、高レベルの放射性廃棄物の公募に対して応募に至った自治体が無いということ。プルサーマルに対する取り組みが中断状態にある電気事業者が存在するという。原子力発電において安全確保活動の品質保証体制が整備されたところ、記録などの総点検の過程で、過去においてなされたデータなどの不適切な取り扱いが是正されないままになっていたことが見出されたとの報告が続いたことなどを挙げています。また、次世代の軽水炉についての開発の在り方を策定することが課題とする他、原子力発電所の建設機会の減少や熟練技術を持つ世代が定年退職を迎えるということなども踏まえて、原子力産業基盤技術を次世代に伝えていく知識管理の仕組みを整備することが課題だということを指摘しております。

2. 以降が、本年の取組についてということであります。

最初に、2. の柱書きに、「原子力に関連するすべての組織は、安全確保を大前提として、原子力の公益性と潜在的危険性それぞれの大きさを認識し、自らの責任を自覚しつつ、原子力政策大綱に示した「原子力政策の基本的な考え方」を着実に具体化していくべきです」という、基本的な考え方を述べております。その上で、以下の点について重点的に取り組むべきと考えますとしております。

最初の点が、原子力を巡る国際動向への積極的対応です。北朝鮮の核実験や米印原子力協定の締結などに対しまして、我が国は、国際社会が核拡散リスクを増大することなく原子力の平和利用を一層推進できる環境を整備することを目指して、核燃料供給保証機能、それから原子力供給国グループによる通商規制などの核不拡散、核セキュリティ体制などを整備・充実する国際的取組に積極的に関与・参加していくべきですとしております。また、安全の確保などに資します次世代の原子力技術に関する研究開発について、相互裨益の観点から国際協力を積極的に推進すると共に、透明性の高い運営を引き続き確保し、このような原子力技術について、原子力の平和利用を進めようとしている国々に協力していくべきですとしております。

2番目は、高レベル放射性廃棄物の調査区域の選定であります。概要調査地区などの選定に当たっては、公募に応じる基礎自治体の首長のみならず、広域自治体の首長の理解を得ることが必要であります。従って、国、事業者などは、それぞれの自治体の住民との間で処分場立地に係る安全性と公益性、それぞれの自治体の持続可能な発展との両立性について相互理解を深めることが極めて重要でしてあります。国、NUMO、発電用原子炉設置者そ

の他の関係者は、閣議決定の計画を踏まえて、このことに向けて一層努力するべきですとしております。

3点目が、原子力分野の研究開発の戦略的推進であります。総合技術としての特質を有する原子力の研究開発を効果的にしかも効率的に推進する為に、産官学間において基礎研究、応用・開発研究、改良研究などの垂直的な研究の連携を図ると共に、原子力の異なる分野間などの水平連携を進めて、イノベーション創出とイノベーション活用の機会を増やしていくべきですとしております。特に、FBRサイクル技術の研究開発については、基本方針を踏まえつつ、積極的に取り組むべきですとしております。

4点目が、原子力分野の知識管理であります。ここでは、原子力の研究開発利用活動が持続的に発展していく為には、経験豊かな研究者や熟練工が担ってきた知識と経験を次の世代に引き継ぐことが必要ですとしております。この為、知識の管理や次世代を担う人材育成の仕組みが整備されねばなりません。国民1人1人が原子力と社会との関わりについて学ぶことのできるエネルギーと原子力に関する教育・学習機会を整備していくことも知識管理の取り組みの重要課題ですとしております。更に、FBRサイクル技術の研究開発の基本方針に示したように、産業基盤の確立に向けて参加者の獲得する暗黙知を含む知的財産の効果的な管理を行う仕組みを整備していくことも重要だとしております。

最後に、5点目として、国民との相互理解のための広聴・広報活動を指摘しております。プルサーマルなどの原子力発電、高レベル放射性廃棄物の処分、食品照射などの研究開発利用の取組は、最新の知識を踏まえた安全確保策を立案し、これを高い品質で実行するとともに、改良改善の可能性を探り、効果的・効率的に推進されるべきですと。ただし、国民及び関連施設の立地地域社会との間で、国、事業者などがそのことについて相互理解を深め、信頼を得ていく努力を絶えず行わなければなりません。このため、国、事業者などは、人々との直接対話を含む広聴・広報活動を引き続き充実していくべきですと指摘しております。

原子力委員会は、関係行政機関と共同して、専門家、一般市民などの多様なセクターの意見をお聞きしながら、原子力研究・開発・利用に関する政策の評価を実施すると共に、以上の諸点に留意して、適宜に適切な施策を企画し、決定していきます。国民の皆様におかれましては、原子力委員会に対して的確な御批判、御提言を含む御支援、御協力をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

以上であります。

(近藤委員長) 有り難うございました。

それでは、これを委員会の年頭の所信とすることについて御議論をお願いします。なお、念のため、先ほどの大臣のメッセージにあります委員会に対する期待のうち、原子力産業の海外展開に係るところ、このキーワードは取り込んでいませんで、事業者が中心となって、そのノウハウを踏まえて、原子力を利用したいとするところに協力していくべきという表現にしています。その他については、やや難しい表現になっているところが少なくないのですが、反映されていると考えています。賛否も含めて御発言いただければと思います。

（伊藤委員）今の国際展開の件も含めて、今委員長が言われたことで、私はここの中で反映されているというふうに理解しております。全体的には、最近の課題等踏まえて、原子力委員会として、今年取り組むべき取り組みについてということで、私は基本的に賛成です。

（近藤委員長）有り難うございました。

広瀬委員は、先ほど既に、この紙には分かり難い言葉が多いと言われましたね。一応、政策大綱等で使われている用語とか言い回しの水準にしているのですが、いかがでしょうか。

（広瀬委員）ある程度しようがないかなという。

（近藤委員長）他に。

（田中委員長代理）「２．本年の取組について」はあまり明示されていませんけれども、原子力をめぐる現状認識の中には、放射線利用ということについて、「学術、医療、農業、工業等の分野で広範に利用されています」ということですので、それについては、特段、今までの延長線上でこれを推進するということと理解して、「本年の取組」のところでは書いていないもの理解して、全体としては賛成したいと思います。

（近藤委員長）研究開発については、特段その分野を指定せずに、一般論として戦略的推進のところに、基礎的なところから応用研究に至るまで連携してやってくれよとしているところ、その中に当然放射線利用も入っていますと考えています。それから、国民との相互理解のところに、食品照射の問題について触れています。

特出しということについては、この所信は、今年力を入れるべきこととして、特定の分野よりは、取組の方法論を指摘している。その理由は、一応ITERとか大きなものには着手がなされたので、今年は、それをゴールに導く方法論について注意を喚起するべきかなと考えたからです。

（松田委員）この年頭の所信を頭に叩き込んで、原子力委員として頑張ろうと思います。すごく分かり易くて、私は良いなと思っております。

（広瀬委員）この国際的なところで、かなり苦労して文面を考えたなという感じがよく分かり

まして、例えば「NSGによる通商規制などの核不拡散、核セキュリティ体制等を整備・充実のために積極的に関与・参加していくべきです」というところは、NSG自体がどういうふうに動くかということにも関わっていると思いますけれども、これが精一杯の表現かなという感じは致します。

（近藤委員長）ここは「国際社会が核拡散リスクを増大することなく原子力の平和利用を一層推進できる環境を整備することを目指して」と、方向性を示して、これに係る内外の取り組みに積極的に関与・参加するという方針を述べるに留めてあります。個別に何をどうするかということについては、いまのところは、こういう考え方で適宜に検討を重ねていくとしか言いようがないからです。

（伊藤委員）全体の話は大変細かい話で、先ほど言葉使いというのがあったんですが、このところは少し整理した方が良いかと思うのは、２ページの「本年の取組」の上のところ、下から３行目のところで、「技能を継承する人材」と。まず技能の継承という言葉が出てくる。それをその下で知識管理という言葉で締めているんですが、３ページを見てみますと、同じようなところで、知識管理のところの２行目で、「熟練工が担ってきた知識と経験」、それからその下で「知識の管理」。ここを少し整理して、知識と経験というのは、経験を通じて技能だとか技術だとか知識、「知識」「技能」「技術」というのをどういうふうに使いつけるのか、それぞれナレッジマネジメントという言葉で締めちゃっているのか、ちょっとここだけの整理で、あまり大きな問題ではないと思うんですが、この整理をしておいた方が良いような気がいたします。私もどういうふうに何を統一した方が良いかとか分かりませんが、ちょっとこのところでいろんな概念が出てきてしまって、意味は分かりますが、言葉使いの問題だろうと思います。

（近藤委員長）具体的な修文をご提案いただければ検討できますが。念のため、こういう活動全体を知識管理と呼ぶのは国際通念であり、それを踏まえています。それから、その２行目の「経験豊富な研究者や熟練工が担ってきた知識と経験」と書いているのは、経験豊富な研究者の経験というわけではなくて、「経験豊富な研究者の知識や熟練工の経験を」というところをまとめてこう書いています。

（伊藤委員）分かりますけれども。

（近藤委員長）経験もまた知識なりで、それを暗黙知の世界にとどめていないで、形式知にして伝えていくべきとされている時代ですから、そのことを念頭に、大きなくりとしての知識の中身を個別具体的に書いているのです。ご心配を踏まえて、表題の知識管理にクォーテ

ーションでもつけるのはあるかと思いますが、知識管理の重要性は、原子力政策大綱でも、6章でしたかしら、強調しているところです。今後は、2007年問題をはじめとして変化する経営環境の中で、さまざまな意味で重要になる活動と考えています。最近も世界銀行の知識管理における世界の知識管理とか、それからNRCにおける知識管理の取組などを目にしましたが、いまや世界の多くの組織が知識管理の重要性に気づいて、活動をしていると理解しています。

（広瀬委員）英語では何ですか。

（近藤委員長）ナレッジマネジメント。日本語の管理がいいかどうかが問題なんですけれども、マネジメントをどう日本語に訳すかというのはいつも悩みます。

（広瀬委員）そうですね。この場合、マネジメントのほうがピンと来ますね。管理と言うと、何か、例えば情報が漏れるのを防ぐとか、そういう意味にとられる可能性はあると思います。だから、知識の継承といったものを含むとすると、管理というのはあまり好ましくないように思います。マネジメントの方が良いですね。

（伊藤委員）私が申し上げたのは、知識管理という言葉が不適切なのではなくて、その前にある知識と経験とか技能とか、この中身があちこちで出てくるからという意味で申し上げまして、知識管理そのものに、私は不当な表現だと申し上げたのではない。別にそれほどこだわる話ではないです。

（近藤委員長）知識、経験、技能をどうやって伝承し、普及するかということで知識管理といっているわけですが、確かにこれが情報管理と誤解されてしまうとすれば注意しなければならないと思います。CSTPは知識管理という日本語を使っているのですか。

（伊藤委員）確かにあまり管理とは言わないかもしれませんがね。

（近藤委員長）知識マネジメントという言い方をするんですか。

（伊藤委員）英語は良くないんでしょうけれども、マネジメントの方がフィーリングとしては良いかもしれないですね。

（広瀬委員）ピンと来ます。

（近藤委員長）この紙では、もう1か所どこかで使っていますよね。2ページの頭のパラグラフの最後のところですね。次世代に伝えていく知識管理の仕組みを整備することと、こう書くとも誤解はないんだろと思うんですけども、ぽつんと知識管理の語が出てくると、確かに誤解があると思います。思い切って、新年を期して、知識管理を知識マネジメントに変えますか。

（伊藤委員）ナレッジマネジメントと言った方がまだ。

（広瀬委員）何か良い言葉ないですかね。

（丸山統括官）これっていろんなところで、政策大綱や何かでたくさん出てきているんですよね、この知識管理という言葉は。だから、そういう意味で使っているというのは、読めばよく分かりますけれども。

（近藤委員長）ええ、原子力政策大綱でも使っていますのでね。どうしたらいいかな。

（伊藤委員）例えば、変えたとすると、３ページの知識管理の「知識の管理」と、こういうふうに言うちょっとニュアンスが変わっちゃうかなと。

（近藤委員長）知識マネジメントと、括弧してマネジメントと入れますか。広瀬委員ご指摘の誤解がないようにするためにです。原子力委員会では原子力政策大綱で知識管理を使っていますので、それとの一貫性を確保しつつ、しかし、ここでは、今年少しこれを重要なテーマにしようと思案するわけだから、誤解がないことも重要なので、ここは括弧してマネジメントと入れてみますか。

（伊藤委員）知識管理全体で、ナレッジマネジメント。

（近藤委員長）そこまでやってしまうと、カタカナ用語が多いとかって怒られちゃいませんか。どうですか。丸山さん。

（丸山統括官）ナレッジとはあまり言わないでしょうね。せいぜい知識マネジメントぐらいで。括弧でマネジメントで、大綱も生かしつつ図るというのはどうでしょうか。

（近藤委員長）では、それはそのように修正いたしましょう。よろしいですか。

それでは、今の修正を加えて、これをもって、大臣の期待を十分反映しているものであるということも確認しつつ、原子力委員会の年頭の所信とすることにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

それでは、そのようにさせていただきます。有り難うございました。

（４）その他

（近藤委員長）今日の議題、最後はその他ですが、何かありますか。

（黒木参事官）その他議題は特にございませんが、次回、第２回原子力委員会定例会議については、１月１６日火曜日１０時半に、合同庁舎４号館地下１階共用Ｂ１０５会議室ということになっています。小さめの部屋になります。

（近藤委員長）委員の先生方、何か御発言はございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、今日の会議はこれで終わらせていただきます。有り難うございました。